急ピッチで進む充電インフラ整備

電気自動車用充電器、全国で1万4366基に

地球環境に優しく、経済的な電気自動車（EV）は、次世代エコカーの代表格。実際に乗ってみると、走りの良さや静かさは感動ものだ。一度の充電での航続可能距離を懸念するドライバーもいるが、国内の充電インフラ数は6月末現在で1万4366基に上り、この不安は過去のものになりつつある。

政府では、緊急経済対策の「次世代自動車充電インフラ整備促進事業」として2012年度補正予算で1005億円を計上、14年度補正予算でさらに300億円を追加し、支援内容を拡充した。今年になり、これを利用した様々な事業が行われることで、EVに乗りやすい環境が急速に整いつつあるという。現在の状況を、経済産業省の自動車課に聞いてみた。

すべての道の駅と高速SAに充電器を

経産省では「電欠なき日本」を実現するため、47都道府県にEV用充電器設置計画の策定を要請、さらなる整備を続けたい意向だ。

今回の補正予算で集中的に整備されるのが、道の駅と、高速道路のサービスエリア（SA）、パーキングエリア（PA）への設置。14年度補正予算では標準的な充電器を設置する際のほぼ全額を支給することにした。

現在、全国で1059カ所ある道の駅のうち、充電器が設置されているのは約400カ所。それを15年度中にほぼすべてに行き渡るようにする計画だ。約800カ所ある高速道路のSA・PAについても、現在の約300カ所から加速度的に増やす意向。カーナビやスマホのアプリで充電場所などをチェックしながらが当たり前だったEVによる遠出が劇的に変化し、そこにたどり着けば間違いなく充電できるという安心感のあるドライブが楽しめるようになるはずだ。

充電器には、30分ほどでフル充電ができる急速充電器と、8時間かかる普通充電器の2つがある。外出先で有用になる急速充電器の設置数を見てみると、5825基まで急増（ゼンリン調べ、今後もさらに増やす予定だ。それ以外の普通充電器の設置数は6月末の時点で8541基（ゼンリン調べ）、急速と普通を合わせた全設置数は1万4366基に達している。

また経産省では5月から12月の間、あらかじめ登録を完了したEVとプラグインハイブリッド車（PHV）4万台を対象に、高速道路の利用料金の一部を補助する事業を開始した。目的は、登録したドライバーの高速道路利用状況から効率よく充電器を配置するためのヒントを得ること。首都高速道路や阪神高速道路などは対象外だが、5～8月は1000円、9～12月までは2000円以上乗れば半額負担となり、電気自動車のドライバーにとっては魅力的な話だ。

インタビューに応える経済産業省自動車課の田中宗介課長補佐＝6月22日、同省で

次世代自動車充電インフラ整備促進事業

- 制度内容：EV・PHV充電設備の設置に際し、国から補助金を交付。2014年度補正予算額は300億円
- 対象者：EV・PHV充電設備などを購入・設置する自治体・事業者・個人
- 申請期限：2015年12月28日

事業メニュー	補助金交付の対象要件	国からの補助金 購入費	国からの補助金 工事費
1	自治体の計画に基づく充電器設置	2/3補助（「道の駅」は定額補助）	定額補助
2	公共性を有する充電器の設置	1/2補助（「高速道路SA・PAなど」は定額補助）	定額補助
3	マンション、月決め駐車場、従業員駐車場などへの充電器設置（コンセント・コンセントスタンドも対象）	1/2補助（「高速道路SA・PAなど」は定額補助）	定額補助
4	事業1～3以外の充電器設置（コンセントスタンドも対象）	1/2補助（「高速道路SA・PAなど」は定額補助）	定額補助
5	課金装置や外部給電器の設置	1/2補助（「高速道路SA・PAなど」は定額補助）	定額補助（課金装置）

（注）補助金額に上限あり

拡充する急速充電器 県内に127台、利便性向上

岐阜県でも、急速充電器の拡充や、電気自動車（EV）を利用した長距離運転体験モニターを募集するなど、さまざまな取り組みが進んでいる。

県はこれまで、次世代自動車普及促進に向けて、2011（平成23）年にアクションプラン、12年にマスタープランを作成してきた。同時に、経済産業省が進める電気自動車やプラグインハイブリッド自動車（PHV）の本格的な普及に向けた実証実験のモデル事業「EV・PHVタウン構想」にも選ばれ、インフラ整備に取り組んできた。具体的には、専門家や自動車メーカー、行政などの代表者が集う「次世代自動車推進協議会」を開いたり、イベントでEVの試乗を行ったり、充電器の利用マップを作成するなど、EVや充電器の普及・促進を図ってきた。昨年度からは、緊急雇用（地域人づくり事業）として、次世代自動車普及促進人材育成事業を始めた。急速充電器の設置事例や補助金の利用方法を紹介したり、長距離利用に対する不安を払しょくしたりして、EV・PHVに不可欠な充電インフラの普及に努めている。

それらの成果もあり、ことし7月1日現在、急速充電器は県内31市町村に127台が設置されている。設置場所は、道の駅をはじめ、ディーラー、ホテル、ショッピングセンター、コンビニなどだ。国は、充電器を設置する場合、今年末までに申請を行い、来年2月までに設置を完了すれば、ほぼ全額を支給することを決めた。県内には、道の駅が北海道に次いで2番目に多い54カ所あるが、現在、急速充電器を設置しているのは14カ所。県は充電器の整備を積極的に働きかけ、旅先での利用促進に力を入れている。今後、約250台の急速充電器の設置を目指している。

そのほか、山間地域の多い高山市では、道の駅などに点在して整備することを進めているほか、市内にある約20カ所の旅館などの宿泊施設に充電器が設置されている。

EVを無料でレンタル 体験型ツアー実施中

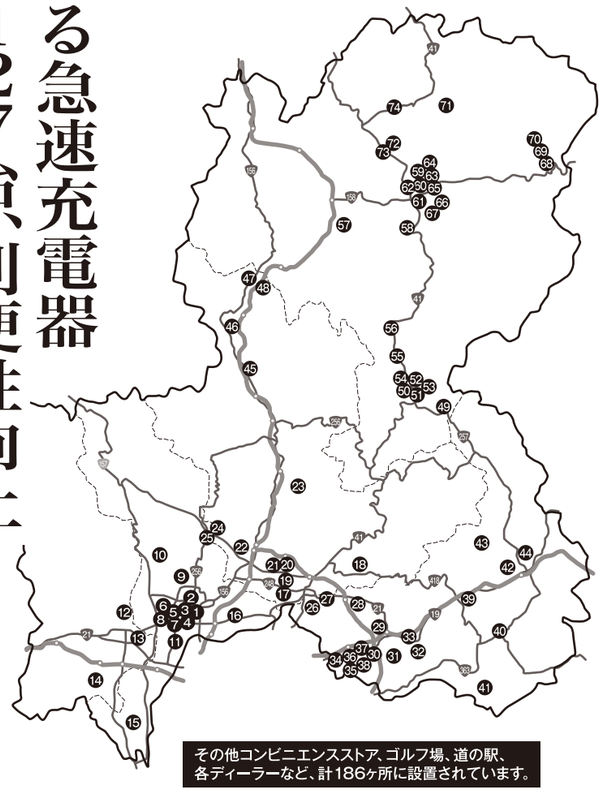
県は、電気自動車を実際に利用して、その魅力を知ってもらおうと、県内の宿泊施設の利用者を対象に、電気自動車を無料で貸し出し、県内の観光スポットを楽しみながら巡る体験型のツアー「電気自動車×奥飛騨の旅」を企画した。実施期間は来年2月末まで。

今回の目的地は、高山市奥飛騨温泉郷にある3つの宿泊施設（※）。希望者はまず、ウェブサイトの予約フォームから、電気自動車を借りる場所や宿泊先の空き状況を確認して申し込む。予約の確認が取れたら、出発日に事前に申し込んだ最寄りの岐阜日産で専用のスマートフォンと電気自動車を借りて出発。提供されるスマートフォンには、道の駅や旅館・ホテル周辺の観光情報や充電スポットの検索機能が搭載されている。道の駅などで利用できるクーポンもあり、運転のエコ度に応じてクーポンの内容がお得になるようになっている。

対象者は県内在住者で、電気自動車とスマートフォンは無料で借りられる。定員の制限はなく、県内33店舗の岐阜日産自動車に配備されている電気自動車を利用する。県新産業振興課の担当者は「電気自動車はお財布にも地球環境にも優しい。多くの皆さんに利用していただき、旅を楽しみながら魅力を感じてほしい」と話す。今後、季節に応じて目的地を増やすなど、年間を通じて、さまざまな企画を検討していく。企画の詳細は県のホームページで確認できるほか、チラシは県内のコンビニをはじめ、岐阜市のマーサ21、カラフルタウンなどで手に入れることができる。

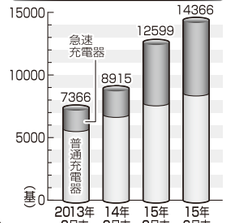
※長作の宿 なかだ屋（高山市奥飛騨温泉郷一重ケ根944）、旅館たなか（高山市奥飛騨温泉郷平湯温泉85－10）、愛宝館（高山市奥飛騨温泉郷平湯650）〈期間中、随時追加、変更あり

岐阜県内の電気自動車用充電器 主な設置箇所



その他コンビニエンスストア、ゴルフ場、道の駅、各ディーラーなど、計186ヶ所に設置されています。

■岐阜市
1 ホテルパーク
2 長良川観光ホテル石金駐車場
3 生長の家岐阜県教化部
4 岐阜駅東駐車場（第二）
5 住まいるパーク岐阜駅Charge Cafe
6 小塩通信
7 スーパーオートバックス岐阜店
8 フィアスホーム岐阜南店
9 オートリペアカワシマ
10 ㈲双葉自動車
■羽島郡
11 道家経営・法務事務所
■大垣市
12 エネオス東海石油SS
13 マスダ電気
■養老郡
14 養南自動車
■海津市
15 海津市役所
■各務原市
16 オートバックス・各務原
■加茂郡
17 坂祝電気工事社屋
18 岩井自販
■美濃加茂市
19 エコソニック
■関市
20 増井電気工事
21 関電設
22 奥田電気工事
23 藤野電設
■山県市
24 VENTURE
25 美山生コン㈱石油販売部美山SS
■可児市
26 湯の華市場
27 オートバックス可児店
28 御嵩駅前駐車場
■土岐市
29 セルコム
30 土岐プレミアム・アウトレット
31 コメダ珈琲土岐下石店
■瑞浪市
32 岐阜電設
33 オートバックス・瑞浪インター
■多治見市
34 大島電気工事多治見支店駐車場
35 ZENT多治見店
36 ケイズ多治見店
37 サガミ多治見店
38 オーシマイーリフォーム
■恵那市
39 みあい診療所
40 岩村醸造㈱
41 くしはら温泉ささゆりの湯
■中津川市
42 マルミ電業
43 岩寿荘
44 ナカデ
■郡上市
45 畑中ランドリーパーク
46 白鳥自動車
47 ホリデイハウスグリーンガーデン
48 クックラひるがの
■下呂市
49 舞台峠
50 杉浦電気工業
51 下呂温泉木曽屋
52 大江戸温泉物語楽湯下呂
53 下呂温泉合掌村
54 オテル・ド・マロニエ下呂温泉
55 桂川電工
56 共栄電気
■高山市
57 桜香の湯
58 三木デンキ商会
59 川崎電気工事
60 ひだホテルプラザ
61 高山グリーンホテル
62 エディオン高山店
63 高山市役所
64 飛騨亭花扇
65 本陣平野屋花兆庵
66 池田電工
67 シモダ道路
68 平湯バスターミナル駐車場
69 奥飛騨ガーデンホテル焼岳
70 長作の宿なかだ屋
71 高山市上宝支所
■飛騨市
72 ヨシキ
73 ヨコヤマデンキ
74 ドライブイン数河



急速充電器24時間 365日利用可能

2泊3日の無料モニターキャンペーンを実施

県内では、全国的に見てEVリーフの利用者は多く、ことし7月1日現在、すでに1300人を超えている。リーフを販売する岐阜日産自動車でも急速充電器の設置は充実している。県内にある33店舗には計43台の急速充電器があり、ほぼ全店舗で24時間365日利用できる。急速充電器を2台設置している岐阜市東興町のにっさんパーク金園通りでは、月の平均利用回数300～400回。通勤の途中に利用するオーナーも多いという。フリート事業部の三輪柳次部長は「岐阜県は、販売台数に占めるEV車の購入割合が高く、急速充電器の利用率も高いのが特徴。週末は充電を待つことある」と話す。また、利用者に急速充電器などの場所が一目で分かるように、NEXCO中日本管内の高速道路をはじめ、県内の道の駅やホテルなどを記したオリジナルのマップを作成している。さらに、多くの方にリーフを体験してもらおうと、2泊3日の無料モニターキャンペーンを実施している。三輪さんは「いろいろなイベントやキャンペーンなどを通じて、リーフを身近に感じてもらえるようにしたい」と話す。

そのほか、岐阜日産自動車は、電気自動車を利用した環境保全対策にも積極的に取り組んでいる。乗鞍自動車利用適正化協議会と連携し、日本一の高所を走る山岳道路として知られている「乗鞍スカイライン」はマイカー規制が実施されているが、二酸化炭素を排出しない電気自動車を利用したドライブ体験コースを開設している。

【お問い合わせ先】
岐阜日産自動車株式会社
☎058（245）1313

岐阜日産自動車フリート事業部 三輪柳次部長

EV導入で燃料代を8割削減、緊急時の電源確保にも期待

EV利用者は個人をはじめ、企業や施設などでも幅広く利用されている。デイサービスセンターなどの施設を運営するNPO法人ぎふ村（恵那市武並町）では、リーフなどの電気自動車を9台導入している。施設では1回の送迎で60km、朝晩2回の送迎で1日120kmを往復する。ガソリン車の場合、1カ月約40万円かかっていた燃料代が、現在は7～8万円の電気代で済む。そのため、30万円以上経費を抑えることができた。理事長の小笠原孝也さんは「デイサービスなどでは、1日の走行距離が固定して把握でき、日中も充電できるため、電気自動車のメリットは大きい」と話し、「利用者やその家族からも静かで、環境にやさしいというイメージもいただき、喜ばれている」という。さらに、実際に送迎を担当するのは女性職員がほとんど。大型のワゴンタイプの車に比べて、小回りが利き、利用者も乗降しやすい。「中山間地で道が狭いところでも運転しやすく、雪がある時でも比較的安心して走れるので助かっている」と長所をあげる。

また、サービス付き高齢者住宅を運営しているが、万一の時の電源確保にも期待している。「非常電源は備えているが、長時間確保することは困難。9台の電気自動車があるので、停電になった場合でも、十分に電源を確保できる。利用者の方にも安心していただけると思う」と話し、「福祉分野では、電気自動車はまさに一石何鳥にもなる。検討する価値はとても大きいのでは」と進言する。

9台の電気自動車を導入し、デイサービスの送迎に利用している＝恵那市武並町、NPO法人ぎふ村デイサービスセンター